

まろり 看護学生

2021年 04 05 月号



- 02・03 看護の現場より — 志賀 玲子さん(神戸協同病院)
- 04・05 コロナ禍の現場のようす
- 06 私の出会った患者さん — 小西 真由さん(東神戸病院)

- 07 ほっとStation
- 08 鈴木富雄医師による患者中心の医療
オンラインワークショップ案内

看護の現場より

看護学生みなさんに、私たちが日々看護を
実践している現場での奮闘ぶりや、看護に
対する熱い思いをシリーズで紹介します。

“THE地域密着”の病院で 外来ナースとして働くやりがい

神戸医療生活協同組合 神戸協同病院
外来 志賀 玲子さん



神戸協同病院の外来

内科・整形・外科・皮膚科・往診科・内視鏡・健診科があり、看護師24人で7つの科を掛け持ちし、日々看護しています。その他、認知症検診・2次救急も行っています。現在は、発熱外来にも力を入れており、発熱患者さまや症状のある患者さまの対応に追われています。

“THE地域密着”の病院!という感じで、昔から協同病院を利用されている患者さまが多く、2世代3世代にわたって受診・健診に来てくださる方もいます。年代的には、健診が必要と言われる40歳代～100歳代までおられます。受診が難しくなったら、往診に切りかえて継続診療を続けています。

発熱外来での主な取り組み

なんといっても、コロナ対策!発熱外来です。発



熱外来の設置は、2020年3月の緊急事態宣言発令の時から開始されました。

発熱患者さまはもちろん、呼吸器症状や味覚障害、消化器症状があっても発熱待機場所で待機してもらい、コロナ抗原検査またはPCR検査の前後も待機をしていただきます。

待ち時間に負担のないように待機場所の椅子の工夫をしたり、病院内で長い時間待たなくてもいいように自家用車で待機してもらったりしています。

私たちも感染予防のため、防護服を正しく着脱できるように練習し、知識を深めていきました。

エピソード その1

9月頃のコロナ第3波からは、陽性患者さまがぼつぼつ出始めました。

ちょうどその時期に、20代の女性が発熱のため発熱外来を受診しました。コロナ抗原検査にて陰性判定でした。しかし、同行してきた母親も実は前日に発熱があったことが発覚。母親にコロナ抗原検査で陽性判定が出ました。娘さまは濃厚接触者となりました。

念のため、2人とも胸腹CT検査を施行しており、母親は胸部にコロナ特有の肺炎画像が軽度ありました。娘さまは、胸部には異常がなかったけれど、卵巣に異常を発見しました。この時にCTの検査をしていなかったら、わからなかった病気が見つかりました。娘さまは濃厚接触者のためすぐに



当院スタッフのコロナワクチン接種の様子

受診はできなかったものの、発熱したことから検査を受けて早期発見できたことは、よかったと思った出来事でした。また、家庭内感染の兆候を目の当たりにし、ニュースの中のことが目の前に起きている現実だと思わされた事例でした。

■ エピソード その2

地域柄、ベトナム人患者さまも多く、ベトナム人の発熱患者さまも受診されます。

日本語が理解できず、対応困難な時、当院では、健診科からベトナム出身のスタッフが助っ人通訳として登場します。ベトナム人の方も陽性が出ることもありました。そんな時、家族で日本語が話せるのはだいたい子どもたちです。

子どもたちは小学生だったり中学生だったり、まだまだ義務教育中の子どもたち。自分も濃厚接触者となるのですが、親の対応のため電話連絡の通訳をしてくれました。親の様子をしっかり教えてくれて、子どもたちも頑張ってくれました。



外来には様々な患者さまが来られます。発熱外来だけでなく、定期診察、健診、検査などで来院されます。そのため、安心して受診ができるように、どんな方にも配慮をして、少しでも体調が悪い人がいないか注意深く観察し対応していくことが大切だと思って、日々看護しています。

■ 看護学生のみなさんへ

外来は、たくさんの患者さまの対応をしながら、短時間で患者さまの様子を観察し、情報収集を行い対応する、という大変な部署ですが、毎月受診に来てくれる患者さまが自分を覚えてくれて頼ってくれれば、とてもうれしくやりがいを感じます。みなさんもどこかに受診することがあれば、看護師の対応を見てみてくださいね。どんな看護師になりたいか、あんな看護師になりたい、私ならこうする、こうしたい!という思いが出てくれば、自分の看護師像が見えてくると思いますよ☆



尼崎医療生活協同組合

尼崎医療生協病院

尼崎医療生協病院は、2020年12月11日新型コロナウイルスのクラスターが発生し2021年2月10日収束することができました。クラスター禍での現状を少しお伝えします。

マスク・フェイスシールド・長袖ガウン・手袋装着(フルPPE)にて、「感染しないか?」「感染させないか?」と緊張と不安の中、看護にあたります。感染リスクが高いため、在室時間は検温など患者さんの状態観察や点滴・処置・検査など優先される業務で精一杯の状況でした。

患者さまの思いに寄り添えられていないもどかしさを感じていました。そんな中でも支援者の協力のもと「マスクを外しての髭そり」「洗髪はドライシャンプー」「爪きり」など、行うことができました。患者さまから「スッキリして気持ち良かった」「ありがとう」と言われ、私たちも

やっとできて良かったと安堵しました。

コロナ禍で制限をよぎなくされている中、普段当たり前のように行っているケアが行えることの喜びを改めて感じることができました。

家族との面会もそうです。当たり前のようには会っていた人と会えなくなる不安、寂しさ…病気で入院していたらなおさらです。コロナ禍で面会禁止の状況の中、オンライン面会を行っています。緩和病棟では、家族が洗濯物の交換や荷物を届けにこられた時は、患者さまの様子や言葉を伝えるように、写真や動画を撮って見ってもらうなど、少しでもご家族が安心してもらえるような声かけを心がけています。

コロナ禍でも、感染対策をしながら、「何ができるか?」探りながら看護にあたっていきたいと思えます。

「感染させない」「感染しない」、防護服の着脱練習の風景です。

神戸健康共和会

東神戸病院

東神戸病院では、2020年3月9日より患者さまの受療権を守り、職員の健康も守り、地域を守りたいと風邪・発熱外来を開始しました。

玄関前に職員が交替で立ち、発熱や風邪症状の有無を確認し、症状がある方は一般外来とは入口を別にして風邪・発熱外来で診察を行っています。

最初は狭い部屋から開始しましたが、感染拡大に伴い4月13日より広い部屋に場所を移して診察を続けています。診察する医師や介助する看護師は、个人防护具を装着しています。4月の个人防护具の物品が足りない時期には、職員がフェイスシールドを、地域の方がゴミ袋で手作りガウンを作成してくださりとて助かりました。

当院で最初に診断した新型コロナウイルス陽性の患者さまは、4月18日風邪・発熱外来で診察した方でした。

ご入院中の患者さまのご家族の面会は現在禁止しています。面会禁止は感染予防としてはやむを得ないのですが、患者さまのケア的には後退していると感じています。できる限り患者さまのストレスを軽減できるようにオンラインでの面会や、病院外での洗濯物の受け渡し時に患者さまの状態をご家族にお伝えする等、看護師は工夫しながら関わっています。

今後はコロナ禍で人と人とのつながりが少なくなっている中、地域で孤立したり困っていることがないかなど、電話などで地域の方の声を聴く機会をもつことを計画しています。



コロナ禍の

現場のようす

新型コロナ感染から1年が経過しました。
各法人で起こった出来事や取り組みについて紹介します。



神戸医療生活協同組合

神戸協同病院

神戸協同病院では2020年11月末、新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しました。

患者さまは長期間ご家族とも会えず、部屋に入ってくるのは防護服をまとった医師や看護師。防護具でスタッフの表情もわかりづらく、どんな辛い入院生活を送られたか…。

看護師も感染拡大を防ぐため、緊張した毎日が続きました。それでも患者さまのために「何かしたい!」「患者さまが頑張れる心温まるケアがしたい!」そんな気持ちで出来る限りの声かけやケアを行いました。自ら感染してしまったスタッフは残されるスタッフへ罪悪感を残

しながら休むしかありませんでした。

この間、看護業務はあらゆる部署から支援し合うことで乗り切り、多職種は業種を超えて玄関対応や掃除やゴミ出し、物品運搬など、みんなで励まし合い、声をかけあって乗り切った1ヶ月でした。

コロナの時代はまだまだ続きます。感染対策をしっかり行い、地域の患者さまに安心して病院に来ていただけるように頑張っていきたいです。



姫路医療生活協同組合

共立病院

病棟では、コロナ発生から現在まで「陽性者0」で経過しています。

当院は1病棟でワンフロアであることから、1人でも陽性者が出ると、クラスターを防ぐことはほぼ不可能であると考えられます。

陽性者であっても無症状の状態や、発症前という場合もあるため、入院してくる全ての患者さまを対象に、PCR検査を実施しています。

検査の結果が出るまでの期間は、入院患者さまに対しては一旦「隔離対象者」として対応しなければなりません。部屋の準備に始まり、更衣・オムツ交換・食事や服薬介

助、場合によってはPトイレや吸引瓶の洗浄等々、全ての事を担当看護師1人がほぼ行わなければなりません。

マスク、手袋は勿論ですが、袖付きのエプロン、シールドマスク等を使用した状態で、長ければ30分以上対応する事もあるため、部屋から出てきたときには発汗でボトボトになって、それだけでもかなりの疲労となります。

スタッフも、健康管理や行動に気をつけて、自分自身はもちろん、身の回りの人を守る「病院にコロナを持ち込まない! 今後も陽性者0を目指す!」という気持ちで頑張っています。



私の出会った患者さん



東神戸病院
北2階病棟
小西 真由さん



【患者さん紹介】
Aさん / 90歳代 / 女性
長期臥床によるADL低下、認知症のある方 /
誤嚥性肺炎

「その人らしく地域で生活できるように」病棟での取り組み

はじめに

看護学生のみなさんはじめまして。

私は現在東神戸病院に勤めており、この春で4年目になる看護師です。

病棟紹介

勤務している病棟は準ICU4床、循環器、呼吸器、消化器を中心とした一般急性期病棟で内科的治療を必要とする患者さまが入院される病棟です。治療だけではなく、同時に患者さまが安心してその人らしく退院後の生活を送れるように患者家族の気持ちに寄り添った看護を目指しています。

患者さまの入院1週間後にカンファレンスを行い、現在の治療段階や今後の退院先、生活で課題になってくることなどを多職種と相談し支援しています。また、患者さまについて気になることがあれば、その都度チーム内でカンファレンスを開催しタイムリーな看護を行うように心がけています。

急性期病棟ではありますが単に病気の治療を行っているわけではありません。今回、新型コロナウイルス感染症の流行期前となりますが、安心して地域で生活していけるように多職種と連携し退院調整を行った事例を紹介します。

患者紹介

A氏は90歳代女性でしっかりした性格で、元々食べる事が大好きな方でした。高次脳機能障害を抱えた次女がキーパーソンです。数か月前までは一人暮らしをしていましたが、肺炎になり他院に3か月ほど入院されていました。その入院中徐々にADLが低下し、誤嚥性肺炎を起こしてしまいました。それ以降は絶食となりポートを造設、点滴で栄養管理され次女宅に退院となりました。退院後にポート感染を起こし、その治療のために当院に入院されました。

本人や家族の希望は、口から少しでも食べられるようになること、自宅で楽しく家族と過ごすことでした。しかし、主介護者の次女には高次脳機能障害があり、介護には課題が多くありました。

入院後ポート感染治療と同時に自宅で過ごすという希望を叶えるため、退院に向けて様々な職種と連携しケアを実施しました。看護師は様々な情報や希望をまとめ、安全な排泄方法や体位変換・オムツ交換などの家族への指導、ST(言語

聴覚士)と共に安全に食べられる食事形態・姿勢を考えました。リハビリスタッフはADL低下予防のリハ、安全な移乗方法の統一を行いました。障害のある娘様に退院後の生活をイメージしていただくために、退院前には病院に宿泊してもらい、1日を通しての介護を実際に体験してもらいました。

治療だけでなく、本人や家族の希望に添えるよう試行錯誤しながら関わりました。本人や家族、多職種と何度も話し合い連携したことで、最終的には口から食事を食べられるようになり在宅サービスを整えて自宅へ退院することができました。

退院後A氏の誕生日会に招待していただき、その際は笑顔で大好きなステーキを食べる姿を見ることができ、医療スタッフ・患者家族と共に悩み考え、希望を叶えることが出来て本当によかったと思いました。

学生のみなさんへ

私はまだ看護師3年目ですが、日々患者さまと向き合い頑張っています。単に治療だけではなく、その先の生活のことも考えていかなければいけません。学生の頃に想像していたものより大変なこともたくさんありますが、日々患者さまから頂ける感謝の言葉や元気になられる姿を見て、看護師という仕事にとってもやりがいを感じています。

コロナ禍で臨地実習も十分に出来ず、実際に患者さまと関わる機会も少なく不安もたくさんあると思いますが、患者さまのために何が出来るか、何を必要とされているかを日々悩み考えて関わる事が大切であると思います。

病院では学べる事がたくさんあります。医療の現場と一緒に働ける日を楽しみにしています。



誕生日会の様子



読者の声



力強い言葉に私たちも励まされます！看護学生の勉強や実習も例年と大きく違い大変そうですが、皆で頑張りましょう！

コロナ禍で医療関係の方は大変だと思います。私も力になれるように勉強がんばります!!! (大学生 もも)

在宅分野はコロナ禍でさらに需要が増えていますね。そして退院後訪問も大切な取り組みですね。これからさらに在宅分野の魅力をお伝えしたいなー。

私の祖父も「自宅で過ごしたい」と訪問看護師さんやヘルパーさんに大変お世話になっています。退院後訪問は、大変安心できるし、嬉しいと思います。(大学生 おかゆ)

今の看護学生の実状が分かり、良かったです。(大学生 K)

全国で大変な中でも夢に向かって頑張っている学生さんがいることは心強いし、自分も頑張ろうと思えますね☆

今は自由な時間を満喫して英気を養ってください。4月から看護師として頑張ってくださいね！応援しています！

国試が終ってホッとしています。コロナで思うように動かせませんが、今はこの自由な時間を満喫したいと思います。(大学生 タコス)

同じ状況の学生さんがいることは心強いし、自分も頑張ろうと思えますね☆皆で頑張りましょう！

コロナの影響で、勉強の方法や生活環境がかなり変わってしまったが、みんな同じだと分かって、もっと頑張ろうと思いました。(大学生 AI)

高校を卒業したのもうすぐ専門学生です！実習とか大変だと思うし一人暮らしするから家事でも大変なことがあると思いますががんばります！(高校生 ALICE)

看護師について役立つ情報が多く、届くのがとても楽しみです。(高校生 オシラ)

オシラさんのようなコメントをいただけるように、今後も編集がんばります！ありがとうございます！！

春らしい日が来て嬉しいです。学生最後の1年が始まるうとしているので悔いのないよう頑張りたいです。(大学院生 おもち)

ほんとに悔いのない、学生最後の1年にしてくださいね。学生生活…うらやましいなあ(編集委員の眩ぎです)。

おめでとう!! 一人暮らしも含めて、学生生活を満喫してくださいね!(^^)!

全国で大変な中でも夢に向かって頑張っている看護学生さんがいることは心強いですね。これから看護学校の勉強頑張ってくださいね。将来一緒に働けることを楽しみにしています。

コロナの影響で、学業と生活費を稼ぐことに追われている看護学生さんがいることを知れた。(高校生 ぽぴこ)

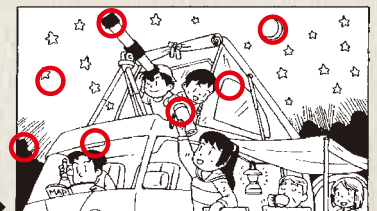


7つのまちがい

[問題] 上の絵と下の絵では7つのまちがいがあります! どこでしょう? (作:野上和彦)

前回のまちがいさがしの答え→

同封の返信ハガキに答えを書いて応募してください。応募いただいた正解者に抽選で図書カードをプレゼント! 5月15日(土)必着。当選の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。



編集後記

コロナ禍で例年とは違うものの、3~4月は卒業や入学シーズンですね。そして、花粉症のみなさま、とっても辛い時期に入っていますね…! いろんな意味で涙目になる季節ですが、新年度を迎えて、また決意新たに頑張りましょう!(O)

がんの告知を受けた女性から、
「これまで色々がんばってきたのに、私には何も残っていない…早く死にたい」と
言われたとき。あなたは、医療者として何ができるのでしょうか？（前回の症例より）

オンライン

鈴木富雄医師による

患者中心の医療 ワークショップ

～医療人になるあなたへ、これからの医療に求められること～

2021年 **5月22日** **土**
14:00～17:00（終了予定）

対象 医学生、看護学生、薬学生、歯学生、
医師をめざす高校生・予備校生

医療系の学生が集まって、さまざまな視点でディスカッションしましょう！

参加学生の感想

普段学校で行う看護師だけでの話し合いではなく、
様々な医療職を目指している多職種同士で話し合
うことにより色々な観点からの意見があり、とても
参考になりました。（尼崎看護専門学校2年生）

普段の勉強の視点に引きずられて、身体的な病
にだけ注目しがちな自分に気がつき、初心を忘れ
てはならないと改めて感じる機会となりました。
（和歌山県立医科大学4年生）



鈴木富雄医師

大阪医科大学総合診療科・診療科長
地域総合医療科学寄附講座・特別任命教員教授

「ドクターG」(NHK総合)ほか、
「たけしの健康エンターテインメント!みんなの家庭の医学」(朝日放送)にも出演。

お申込み・お問い合わせ

Email : igakusei@hyogo-min.com 兵庫民医連 医系学生担当 まで
件名に「鈴木富雄医師WS参加希望」、本文に「氏名・学校名・学部学科・学年・住所・
電話番号(当日も連絡のつく番号)」をご記入のうえ、お申込みください。
(右のQRコード、または、ホームページからも申込可能です)



主催：兵庫民医連 兵庫県神戸市中央区港島南町5丁目3-7 TEL.078-303-7351